

西日本豪雨

今夏再び被害も 防災学術連携体が警戒訴え

毎日新聞 2018年7月22日 19時21分 (最終更新 7月22日 19時35分)

土木学会や日本建築学会など防災に関わる56学会でつくる「防災学術連携体」は22日、西日本豪雨を受けて市民向けの緊急メッセージを発表した。異常高温による台風の勢力増大や地中に残っている雨水の影響で、今夏再び災害に見舞われる可能性もあるとして、十分に警戒するよう訴えている。

2016年設立の連携体が市民にメッセージを出すのは初めて。今月16日に緊急集会を開き、被災地を含めて全国に注意を呼びかけることが必要と判断した。

メッセージは、地球温暖化で豪雨の発生頻度が高まり、洪水や土砂災害の危険性が高まっていると指摘。猛暑の今年は海面水温が高いため台風の勢力が増すことも予想され、夏から秋にかけて大雨への備えを呼びかけた。特に西日本では雨水が地中に残り、通常の雨でも土砂崩れが起こる可能性が高いと注意を促している。また「あなたには自分と家族を守る責任があります」と、「自助」の重要性を説いた。

代表幹事の古谷誠章・日本建築学会長は「それぞれの方が、まずは自分の住んでいる場所のリスクを知ってほしい」と求めている。【池田知広】